

ホラッ 1月の  
屋外園が呼んでいますよ!!  
京都市青少年科学センター

屋外園の散策にご自由にお使いください。 使い終わったら もとにもどしてください。

ウサギゴケ から

えと  
千支のバトンタッチ

リュウノヒゲ(タツノヒゲ) へ

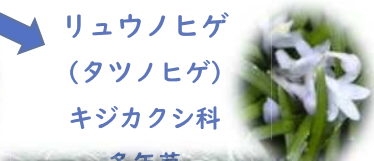


ウサギゴケ

(ウトリクラリア・サンダーソニー)

タヌキモ科

南アフリカ原産



リュウノヒゲ  
(タツノヒゲ)  
キジカクシ科  
多年草



日本や東南アジア、フィリピンなどの森林地帯に自生するキジカクシ科の常緑多年草で、庭園によく使われています。暑さ寒さにも強く、日陰にも強いのでグランドカバーとしても利用されます。青い実に見えるのは、種子です。花が咲いた後、果皮がむけ、種子がむき出しで育ちます。青い皮は肉厚の種皮で、むくと乳白色の胚乳があり弾力に富んでいて、まるでスーパーボールのようにはずみずみします。

リュウノヒゲ(ジャノヒゲ)の根は生薬の麦門冬(バクモンドウ)となり、漢方薬で咳止めなどに効果のある麦門冬湯などに使われます。

新春 入ロスロープの花壇を彩る花は・・・

ビオラ、マリーゴールド、パンジー、スイートアリッサム、クレサンセマム(ノースポール)たちです。お越しをお待ちしていますよ。



マンリョウ 万両 (サクラソウ科)

常緑の小低木で高さは1mほどになる。葉は互生し、葉は長楕円形で、葉縁が波打ち波状の鋸歯がある。花期は夏(7月ごろ)。果実は液果で、10月ごろに赤く熟し、翌年2月ごろまで枝に見られる。赤い実と緑色の葉のコントラストが美しく、お正月の縁起ものです。

センリョウ 千両 (センリョウ科)

常緑小低木の1種で、葉は対生し、葉の縁には鋭い鋸歯がある。花は極めて単純であり、1個のめしべと1個のおしべだけからなる。冬に赤く美しい果実をつけるため栽培され、また正月の飾りに使われる。

一両(アリドオシ・アカネ科)、十両(ヤブコウジ・サクラソウ科)、百両(カラタチバナ・サクラソウ科)などもあり、比べてみるとおもしろいでしょう。(写真は裏面)



ヤツデ(ウコギ科) 常緑の低木、葉が大きく手のひら状に裂けた独特の形をしている。丸くまとまって白い花が咲き、葉はサポニンを含み薬効のある生薬になる。虫たちにとっては貴重な冬のレストランです。





1 月

# 花だより

京都市青少年科学センター

